「経営学部国際ビジネスコミュニケーションプログラム（IBC）の教育効果と改善に向けて」

はじめに

2021 年度に経営学部国際経営学科の特色あるプログラムの一つとして、「国際ビジネスコミュニケーションプログラム（IBC）」が始まった。開始前からコロナ感染症が蔓延し、オンライン授業を余儀なくされ、留学は完全中止に追い込まれるなど様々な困難を伴う船出であった。それにもかかわらず学生は意欲を持って熱心にプログラムに参加し学修を進め、2022 年度には 2 年目を迎えることができた。

本プロジェクトペーパーは、プログラムの概要（目的、実施体制、教育内容）とこれまでの学生への教育効果、到達目標への達成度を分析し、さらなる改善への提案を行うことを目的としている。

第一部では「国際ビジネスコミニュケーションプログラム（IBC）の実施報告（2021 年度）：教育効果分析と改善に向けて」を日本語で記載し、プログラムの全体的な実施状況を報告し、教育効果を分析する（白石・河内）。

第二部では“Ways the Kanagawa University IBC Program Can Best Attract and Create Successful Satisfied Students”（英語、一部日本語）で IBC プログラムの効果的な広報と高い成果・満足度の達成について検討する（Hirst, Kawachi）。

第三部では “Assessing Performance Data in IBC EFL Classes, 2021-2022”（英語）で学生の学修上のデータからどの様な分析・評価が可能か、また分析結果を IBC 授業の改善にどの様に活用できるかを議論する（Fairchild）。

第一部
「国際ビジネスコミュニケーションプログラム（IBC）の実施報告（2021 年度）：教育効果と改善に向けて」

白石万紀子・河内智子

1. IBC プログラムの計画から実施に至る経緯

IBC プログラム計画のきっかけは、21 世紀に活躍するグローバル人材が必要とする能力を学生に身につけさせるためには、英語科目をレベル別に行うという従来からの方法から一歩進んで英語でのコミュニケーション能力を鍛えると同時に、国際的視野で自律的かつ協働的に問題発見・解決ができることを目標とした、英語と専門科目が連動した 4 年間のプログラムが必要ではないか、という経営学部英語教員の時代の要請に対する危機感であった。

そこで 2019 年度から本格的に CLIL (Content Language Integrated Learning)、EAP (English for Academic Purposes)、EMI (English-Medium Instruction) の研究を進め、そこで得られた知見を盛り込んだ、経営学部学生向けの 4 年間のプログラムを開発した（白石、河内 2020）。さらに 2020 年度の 1 年間をかけて、経営学部英語専任教員でチームを組み、具体的なプログラム内容や専門科目の新設、英語科目と専門科目との連携、専門科目を英語で勉強する前段階の科目の詳細設定、プログラムの途中で組み込む各種留学と科目の連携、留学先で必要となるスキルの分析とその教育方法分析、教材と課題の検討、学生の習熟度別の教育方法の詳細について検討を行ってきた。

その後 2021 年度に向け、ホームページ上やオリエンテーション等で動画・紙媒体・対面によるプログラム広報活動を行った。実際にどれだけの人数が集まるか不安がある中のスタートではあったが、幸い想定していた人数以上の応募があり、プレイスメントテストの結果に基づいて、IBCa レベル 2 クラス 39 名、IBCb レベル 2 クラス 41 名、Pre-IBC レベル 2 クラス 41 名の計 6 クラス 121 名で一年目プログラムを 4 月にスタートすることができた。

２．プログラム概要

以下に前回のプロジェクトペーパー（白石、河内、『CLIL, EAP, EMI を基盤としたグローバル人材育成』2020）を一部引用（pp.25-29）しながら、最新の変更点も加えてプログラム概要を説明する。

１）教育目標

国際ビジネスコミュニケーションプログラム（IBC）の教育目標は、国際的な視野で自律的かつ協働的に問題発見・解決にあたり、国際ビジネスの知見を活かして持続可能な社会の発展に貢献できるグローバル市民の育成である。

２）プログラムの構成と進行

１年次前学期授業開始前

プレイスメントテスト受験時にプログラムへの出願を行う。テストの得点に応じて IBC プログラムの各レベルに仮配属が決まる。

１年次前学期

レベル毎に前学期配当英語科目 (上級 IBC English または中級 Pre-IBC English）Ⅰ・Ⅱを履修する。この科目では留学で必要な英語と共に英語で開講される専攻科目（English-Medium Instruction, 以下 EMI 科目と称する）を履修するために必要な基礎的アカデミック・イングリッシュを身につける。後学期により高いレベルに配属されること、また留学に備えてより高い TOEFL ITP® スコアを獲得することを目指す。

１年次前学期終了時

7 月に実施されるプレイスメントテストでの得点に応じて「IBC コース」もしくは「Pre-IBC コース」に本配属となる。

１年次後学期

「IBC コース」の学生は英語科目（上級 IBC English）の後学期配当科目Ⅲ・Ⅳを履修し、１年次終了までに TOEFL ITP® スコア 450 点以上の取得を目指す。２年次前学期からの留学プログラムに参加希望の学生は専攻科目「IBC Bridge」（平易な英語で経営学を学ぶ科目）と「IBC 演習」（「IBC Bridge」での学修をサポートする科目）をセットで履修する。「IBC コース」でレベル A 認定を目指す学生はこの学期以降長期留学を行う（時期の選択は自由）。

「Pre-IBC コース」の学生は英語科目 (中級 Pre-IBC English) の後学期配当科目Ⅲ・Ⅳを履修し、１年次終了までに TOEFL ITP® スコア 380 点以上の取得を目指す。

２年次前学期

「IBC コース」の学生は「IBC Bridge」と「IBC 演習」をセットで履修する。

「Pre-IBC コース」の学生は専攻科目「Pre-IBC 演習」を履修し、国際ビジネス、経営、国際社会の諸問題について平易な英語で学ぶ。

２年次後学期以降

「IBC コース」の学生は学修状況に応じて英語で開講される専攻科目（EMI 科目）を履修する。

「Pre-IBC コース」の学生は本学の短期留学プログラム（Study Abroad プログラムまたは推薦語学研修）もしくは長期留学プログラム（全学派遣交換留学または経営学部中長期留学プログラム）に参加する。

本プログラムの特徴の一つに、入学時に必ずしも非常に高いレベルの英語力を有していなくてもプログラムに受け入れ、目標達成に向けて段階的に学生を支援していくという点が挙げられる。学生本人の努力を支援奨励するため、入学時に Pre-IBC レベルに配当されたとしても、TOEFL ITP® スコアが一定のレベルに達した場合に IBC コースに変更し、経営学部の中長期留学や全学派遣交換留学を目指すことができる様に設定されている。

プログラム修了要件

Level A 認定

共通教養英語科目のうち所定の英語 I、II、III、IV

IBC 演習、IBC Bridge

1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上取得 注1

EMI 科目 10 単位以上（もしくは TOEFL ITP®500 点以上と EMI 科目 6 単位以上）

経営学部中長期留学プログラムもしくは全学派遣交換留学プログラムの修了

Level B 認定

共通教養英語科目のうち所定の英語 I、II、III、IV

IBC 演習、IBC Bridge

1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上取得

EMI 科目 10 単位以上

Level C 認定

共通教養英語科目のうち所定の英語 I、II、III、IV

Pre-IBC 演習

１年次終了までに TOEFL ITP®380 点以上取得

経営学部 SA プログラム、全学推薦語学研修（短期）、経営学部中長期留学プログラム、全学派遣交換留学プログラムのいずれかの修了

注 1）但し 2021 年度入学の学生についてはコロナ禍のため TOEFL ITP® の受験機会が少なかったためいずれのレベルについても 2 年次 8 月までを目標スコアの取得期限とした。

表１：IBC プログラム履修要件と認定レベル
（2022 年度　神奈川大学経営学部履修要覧）

国際ビジネスコミュニケーション（IBC）プログラム履修モデル

	1年次前期	１年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
開講科目	英語Ⅰ・Ⅱ(中級Pre-IBC English)* 英語Ⅰ・Ⅱ(上級IBC English) *	英語Ⅲ・Ⅳ(中級Pre-IBC English)* 英語Ⅲ・Ⅳ(上級IBC English)* IBC Bridge IBC演習	IBC Bridge IBC演習 Pre-IBC演習		Business Communication International Work Environments	Business Communication
【例1】 IBCコース Level A 認定 TOEFL450点以上	英語Ⅰ・Ⅱ(上級IBC English)	英語Ⅲ・Ⅳ (上級IBC English)	IBC Bridge IBC演習 EMI科目***	中・長期留学**		EMI科目*** EMI科目*** TOEFL 500点
【例2】 IBCコース Level B 認定 TOEFL450点以上	英語Ⅰ・Ⅱ(上級IBC English)	英語Ⅲ・Ⅳ (上級IBC English)	IBC Bridge IBC演習	EMI科目*** EMI科目***	EMI科目*** EMI科目***	EMI科目***
【例3】 Pre-IBCコース Level C 認定 TOEFL380点以上 450点未満	英語Ⅰ・Ⅱ(中級Pre-IBC English)	英語Ⅲ・Ⅳ (中級Pre-IBC English)	Pre-IBC演習 スタディー・アブロードⅠ** スタディー・アブロードⅡ （認定科目） 外国語（SA）（認定科目）			

*「英語Ⅰ～Ⅳ」は共通教養科目
**留学に行く時期は異なる場合もある

***英語で開講される専攻科目【EMI （English-Medium Instruction）科目】一覧（2022年度の例）

前期開講科目		後期開講科目	
英語科目名	日本語科目名	英語科目名	日本語科目名
Cross-Cultural Communication Human Resources Management Management Strategy International Political Science I Area Studies (North America) Japanese Culture Business Communication[前・後期] International Work Environments	異文化間コミュニケーション 人的資源管理論 経営戦略論 国際政治学Ⅰ 国際地域論（北アメリカ） 日本文化論	Management Marketing Strategy Japanese Business History Organization Theory International Relations International Political Science II Area Studies (Southeast Asia) Entrepreneurship International Marketing Multicultural Society Business Communication[前・後期]	経営学総論 マーケティング戦略論 日本経営史 経営組織論 国際関係論 国際政治学Ⅱ 国際地域論（東南アジア） ベンチャー論 国際マーケティング論 多文化社会論

3）教育内容及び実施体制

IBC English

共通教養の英語科目であり、週４回の授業が連携して行われる。ビジネス、政治、経済、先端技術、SDGs など国際社会の諸問題をテーマに読解、文法、語彙を強化すると同時にディスカッションの方法やアカデミックライティングについて学ぶ。

Pre-IBC English

共通教養の英語科目であり、週４回の授業が連携して行われる。ビジネス、政治、経済、先端技術、SDGs など国際社会の諸問題をテーマに、IBC コースへの編入も視野に入れた TOEFL、TOEIC のスコアアップを念頭に、基本的文法能力、語彙力、読解力、スピーキング力、リスニング力の向上を目指す。

IBC Bridge

経営学部専攻科目である。IBC English から EMI 科目への橋渡しを目的としている。より専門性の高い EMI 科目の英語による講義に対応できる力を養うため、国際経営の基礎を英語で学ぶ。講義は全て比較的平易な英語で行われ、英語の資料を読み込む他、効果的グループディスカッションや高いレベルのプレゼンテーション、アカデミックライティングを修得する。

IBC 演習

IBC Bridge のサポート科目であり、IBC Bridge と連携して実施される。IBC Bridge で扱う題材についての語彙、表現、ポイントの確認、事前リサーチ、ディスカッションの準備などを行い、事後に内容の確認や発展的活動を行う。また IBC Bridge で出題された課題の指導を通して論理的文章作成や論理的かつ効果的なプレセンテーション、建設的批判、論理的な討議の方法を修得する。

Pre-IBC 演習

ビジネスと SDGs などの国際社会の諸問題を英語で学ぶ。テーマ毎にグループディスカッションを行い、建設的な批判や論理的な意見表明の方法を修得する。また取り上げたテーマに関連して自分なりの問題点と解決案の提案という形で論文作成を行い、さらにそれに基づいたプレゼンテーションを行う。

3. 2021 年度 IBC プログラム参加状況

前述の通り、2021 年度前学期に参加した学生の人数は 121 名 (IBCa 39 名、IBCb 41 名、Pre-IBC 41 名) である。そのうち後学期に IBC プログラムを継続しなかった学生の人数は 41 名、また後学期から新たに IBC プログラムに参加した学生の人数は 28 名である。また当初 Pre-IBC レベルであったが、前学期終了時のプレイスメントテスト結果により後学期から IBC レベルに昇格した学生の人数は 16 名となっている。2021 年度後学期終了時点で IBC プログラムに在籍していた学生は 109 名である。

以下の表 2-4 は各レベルでの移動の詳細を示している。

表 2 ：2021 年度後学期 IBC プログラム非継続人数

前学期配当	非継続人数
IBCa	6
IBCb	10
Pre-IBC	17
不明	8
合計	41

表 3 ：2021 年度後学期から IBC プログラムに参加した人数（レベル別）

前学期配当	後学期配当	人数
基礎英語	Pre-IBC	5
	IBCa	0
	IBCb	0
初級英語	Pre-IBC	8
	IBCa	0
	IBCb	2
中級英語	Pre-IBC	8
	IBCa	0
	IBCb	4
上級英語	Pre-IBC	0
	IBCa	0
	IBCb	1
	合計	28

表４：前学期 Pre-IBC から IBC プログラムに昇格した人数

後学期配当	人数
IBCa	3
IBCb	13
合計	16

4.　教育効果について（対象：2021 年度 IBC プログラム参加学生）

１）プレイスメントテストスコアによる分析

2021 年度１年次生はプログラム開始時の４月、前学期終了時の７月、後学期終了時の 12 月の３回にわたり ELPA[注2] によるプレイスメントテストを行なった。ELPA によると各回の難易度はできる限り同程度になるように調整してあるとのことだが、テスト実施者からは実際のテストは回により難易度がやや異なるのではないかという報告がある。また、前学期終了時から本配属になる後学期までに IBC 履修登録者[注3] に入れ替わりがあるため、必ずしも厳密な比較にはならないことを留意する必要があるが、大まかな傾向を見ることができる。

表５：プレイスメントテストスコア比較　（４、12 月）

	4月	12月	4月→12月
非IBC (287名)	172.3	171.2	-1.1
IBC　(77名)	211.6	218.0	+6.4

表６：プレイスメントテストスコア比較（４、７、12 月　３回受験）

	4月	7月	12月	4月→7月	4月→12月
非IBC (283名)	171.7	179.9	170.8	+8.2	-0.9
IBC　(75名)	211.4	241.6	218.2	+30.2	+6.8

注 2）ELPA：英語運用能力評価協会（特定非営利活動法人）

注 3）表中の「IBC」は前後期を通じて IBC 系英語を履修した学生を示す。後学期 IBC 系英語履修者数 109 名中、前期も IBC 系英語を履修していた学生は 81 名。そのうち４月、12 月の試験を受験した者が 77 名、4、７、12 月の３回全て受験した者が 75 名。

基礎、初級、中級、上級の 4 レベルで構成される通常の英語（「非 IBC」と表示）履修者と、中級レベル（Pre-IBC）以上で構成される IBC 系の英語（Pre-IBC English と IBC English）を通年で履修していた学生の比較においては、4 月時点のスコアに差があるのは当然であるが、4 月から 7 月にかけての伸びは非 IBC が 8.2 ポイントに対して IBC 系英語が 30.2 であることを見ると、IBC 系英語の成果が傾向として掴める。また、やや難しいと実施者からの報告がある 12 月のテストについても、非 IBC の伸びが −0.9 に対して IBC 系英語の伸びが 6.8 であることから、やはり IBC 系英語がプレイスメントテストスコアの伸びに積極的な影響を与えていることがわかる。

2）TOEFL ITP® スコアによる目標達成度分析

次に 2021 年度 IBC プログラム参加者の TOEFL ITP® スコア（2022 年 8 月まで）データを基に IBC 各レベルの目標達成度を分析する。

表 7 ：TOEFL ITP® スコアと達成度

Level	Ave. (Best Score)	Max	Min.	# of Ss Achieved Target	# of Ss Not Achieved Target	# of Ss not taken TOEFL	Total S #	Achievement Rate
IBC a	487	543	427	32	3	0	35	91%
IBC b	463	537	417	28	7	4	39	72%
Pre-IBC	424	467	357	25	1	3	29	86%
All	461	543	357	85	11	7	103	83%

IBC A レベル認定、IBC B レベル認定の TOEFL ITP® スコア認定要件 (Achieved Target) は 450 点、IBC C レベル認定（Pre-IBC）の同要件が 380 点である。2022 年 8 月までの平均スコアでは、IBC a が 487 と目標を大幅に超えて（+37）高く、次いで IBC b が 463 (+13)、さらに Pre-IBC も目標を大幅に超えて 424 (+44) と高いスコアを達成することができた。また 1 年半の IBC English および IBC Bridge、IBC 演習の成果として 8 割以上の参加者が目標を達成するという高い達成率を得ることができた。

3）留学状況

2021 年度入学の IBC プログラム参加学生のうち、2022 年度（2023 年 3 月まで）に留学した学生及び 2023 年度に留学が内定している学生（2022 年 12 月時点）の数と派遣先は以下の通りである。

全学派遣交換留学　23 名[注4]（中期4～6ヶ月：10 名、長期 10 ～ 13 ヶ月：13 名）
派遣先：

マレーシア　2 名	ブルガリア　1 名
アメリカ合衆国　3 名	ベルギー　1 名
オランダ　4 名	ラトビア　1 名
スウェーデン　3 名	リトアニア　1 名
スペイン　2 名	オーストリア　1 名
ドイツ　2 名	韓国　2 名

注 4）うち 3 名は 1 年次前期のみ IBC プログラムに参加

2021 年度入学の非 IBC プログラム学生の 2022 年度・2023 年度（予定）全学派遣交換留学数は 1 名、IBC プログラム学生では 23 名であることから、IBC プログラムが全学派遣交換留学に与える影響は大きいと言える。

また、2022 年度に派遣交換留学に参加した学生数は学部全体で 27 名となっている。IBC プログラム開始以前の経営学部からの全学派遣交換留学参加学生数が 2016 年度以降コロナ発生前まで毎年 17 ～ 20 名程度であった（白石、河内、2020, pp.22-23）ことを考えると大幅に増加したわけでは無い。これは 2022 年末時点であってもコロナ感染症の世界的蔓延が続いているという状況が、学生及び保護者に留学を躊躇させていることも一因だと考えられる。

尚、上記以外にも 2021 年度入学の IBC 学生 5 名が 2022 年度に経営学部の中長期留学プログラムでマレーシアの提携校に約 6 ヶ月間派遣されており、さらに 2 名が 2023 年度前期に派遣される予定となっている。

5. 今後の課題と改善に向けて

2021 年度の IBC プログラムでは、IBC、Pre-IBC のどのレベルにおいてもプレイスメントテストスコアや TOEFL ITP® スコアが上昇したことから、英語運用能力の向上が認められた。また、前学期 Pre-IBC を履修していた学生のうち 39% が IBC コースに昇格したことから、本プログラムの特徴である、開始時に必ずしも高い英語運用能力が無くても、プログラムを進める中で成長させていくという目標もある程度達成できていることがわかる。さらに、一年次前学期に IBC コース、あるいは Pre-IBC コースに登録しなかったが、後学期から登録する学生が一定数いることも後学期からの登録を受け入れるプログラムの柔軟性が学生の意欲に応えるものになっていることがわかる。

一方で課題も明らかになってきた。まず前学期終了時に IBC プログラムを継続しない学生が約 34% いたことである。特に IBC b と Pre-IBC の学生に多くみられた。4 月当初に IBC プログラムや他のプログラム内容への理解が不十分であったことから、後学期に別のプログラムへの変更の希望があったことや、プログラム修了のためには当初想定していた以上の意欲や努力が求められることに気づき、非継続を決めた学生がいたことなどが原因として考えられる。今後はプログラム内容を事前に十分理解してもらう工夫をすると共に、授業内でも目標に向けてプログラム継続を奨励していくきめ細やかな支援が必要であろう。次に全学の派遣交換留学生の数が従来よりも大幅増にはならなかったことである。コロナ感染症が終息し、ヨーロッパの政情不安が落ち着ついた時にはより多くの学生を世界に送り出せるように励ましたい。最後に 3 年次以降の学生サポートも課題である。IBC 演習の履修後に英語教員と学生が直接コミュニケーションを取る機会は限られる。EMI 科目の履修を奨励し、サポートする体制も必要である。また現在プログラム要件を満たした学生のためにプログラム認定証の授与を準備しているが、学生の就職時の利便性を高めるため、できれば成績証明書へのプログラム修了の記載が望ましい。今後は 2022 年度の IBC プログラムのデータも近日中に出揃うことから、さらに変化や問題点を検討して引き続き IBC プログラムの内容や制度の改善に努めていきたい。

引用文献：

神奈川大学履修要覧　経営学部（2022）

白石、河内 (2020)『CLIL、EAP、EMI を基盤としたグローバル人材育成』神奈川大学国際経営研究所